



未来を夢見て Season 2

2021/8/17 No. 93

夏の終わりのハーモニー

～この夏、心に残った一冊『二平方メートルの世界で』～

それにしてもコロナの感染の影響が収まりません。8月15日現在、宮城県では感染者が165人を超えているようです。ワクチンの接種は進んでいるようですが、本当にいつまでこの状況が続くのか・・・。

我が家では今年も岩手県への帰省を中止し、お盆も2年続けてステイホームの毎日となりました。それでも天気が良ければ気持ちのよい汗が流せるのですが、連日の雨模様。となれば、することは読書。この夏読んだ本をいくつか紹介させていただきます。

・『ケータイをもったサル』（中公新書 正高信男 著）

何となくタイトルから言いたいことは分かりますが、内容は家族論、コミュニケーション論です。豊富なデータと筆者の専門の比較行動学から、大変分かりやすく論じられていました。6年生くらいになれば十分理解できる内容です。

・『60歳からの外国語修行』（岩波新書 青山南 著）

私も還暦が見えてきて、退職後やってみたいことの1つが外国語の習得です。これまでも、英語（中学から大学）、韓国語（独学）、中国語（独学）など、筆者と同様、ラジオ講座を手掛かりに何度もチャレンジしてきましたが、挫折の連続でした。そんな気持ちで本書を手にしたのですが、内容は筆者のメキシコ滞在の奮闘記。実に痛快で心地よい内容でした。

・『ミュンヘンの小学生』（中公新書 子安美知子 著）

サブタイトルが「娘が学んだシュタイナー学校」。学者夫妻が2年間、当時の西ドイツ（現ドイツ）のミュンヘンに留学し、現地の学校にお嬢さんを入学させた時の記録です。シュタイナー学校は私立学校。当然公立の学校もあるわけで、その対比が分かりやすく書かれています。初版が1975年に出されているので、教育に関わる多くの方がたが目にしていることと思います。教育に関わる人たちはぜひとも読んでおきたい一冊です。

・『実行力』『交渉力』『決断力』（PHP新書 橋下 徹）

まさに自分に欠けている3つ、とあって手に取りました。あの頭脳明晰な筆者だからできる部分も多分にあります。政治の表舞台や役所の内部と合わせて解説されているので、（なるほど）とあって一気に読むことができました。

・『二平方メートルの世界で』（小学館 文／前田海音 絵／はたこうしろう）

この夏最も心に残った一冊。実在の小学3年生が書いた「子どもノンフィクション文学賞」（北九州市主催）の大賞受賞作品。小野小学校の子供たちにもぜひ紹介したい一冊です。

8月17日（火）。お盆期間も教頭先生方や堀田先生、定期的に学校を巡視していただき、無事を確かめていただきました。また、学校付近の交差点には新たに待機線をかいていただき、大変ありがたかったです。長かった夏休みも終盤。新学期に向けて少しずつ体と心を整えていきたいものです。



（文責：手代木）